



手づくり支援プロジェクト

～手づくりの器を直接被災地に届けよう～

第8回支援活動の記録 2014年7月25日～27日 (宮城県本吉郡南三陸町)



手づくり支援プロジェクトとは

私たちは震災直後から東北の被災地で栃木の名産である**益子焼などを提供する陶器市イベントを開催**してきました。避難所で多くの方々がサララップを敷いた発泡スチロールの食器で食事をしている姿をTVでもよく見たと思います。私たちの職場でも震災後しばらくは発泡スチロールの器を毎日洗いながら再利用し、日に日に変形劣化してゆく容器で、冷たい味気ない食事をしていました。被災地での辛さとは比べようになりませんが、自分たちでさえこのような辛さを感じていました。


その後、徐々に仮設住宅ができ、避難所から仮設住宅に入居が始まりましたが、仮設住宅には基本の食器のset(飯椀、湯呑、小皿など)はありますが、数や種類は少なく、すべて量産品の画一なもので、まるで病院の食器のように感じました。

栃木にいる私たちが地元東北の為に何ができるだろう、といういろいろ考えましたが、栃木も益子や芳賀など多くの被害があり、友人に被害を受けた益子の陶芸家も多くいたこともあり、栃木と東北を両方支援できたらと、社内、関連メンバー、益子の陶芸家たちとこの支援活動をスタートさせました。仕組みは一般の募金(個人や協賛店)で器を購入し、それを私たちが直接被災地へ届けるというものです。一般の方々、お店、作家の協力により、お金は栃木、益子に循環させ、器を東北へという流れで双方を支援する形をとっています。器は生きる基本である「食」に彩りを与え、復興に向けた毎日の生活の中で少しでも明るく元気になるような一助になってもらえたらという想いでこの活動を行っています。

活動の軌跡

↓陶器市や協賛店でのフライヤー(現在)

一般/協賛店支援
募金/募金箱設置



・支援金の提供
(寄付、協賛店の募金協力)


手づくりの器を被災地へ届けよう!

手づくりの「器」は、生きる基本である「食」に彩りを与えます。そんな「器」で、復興に向けた毎日が少しでも明るく、元氣になってもらえたら、という想いで活動しています。

→ 支援金 → **手づくり支援プロジェクト** ← 器購入 →

栃木在住の東北出身の「が」、会員による運営
(広報活動/募金活動推進/促進グッズ製作etc.)

作家による支援
食器提供(益子焼など)



・上代の3割での提供
・B品/半端品などの無償提供
・陶器市での募金推進協力

これまでの活動実績! 手づくりの器約1万4000個を提供!

- 2011年7月 山田町(4000個を提供)
- 2011年12月 大塚町/岩手市(2700個を提供)
- 2012年7月 遊動高田市(3000個を販売、全売上を寄付)
- 2012年12月 気仙沼市(1200個を販売、全売上を寄付)
- 2013年6月 東松島市(1100個を販売、全売上を寄付)
- 2013年12月 石巻市(600個を販売、全売上を寄付)
- 2014年3月 石巻市(700個を販売、全売上を寄付)

◎問合せ「手づくり支援プロジェクト」で検索
<http://handmade-project.info/>

◎支援金の口座 銀行振込
 足利銀行：秋葉川出張所 (普) 3230334
 口座名義 手づくり支援プロジェクト

「手づくり支援プロジェクト」は **被災地へ手づくりの器を届ける支援活動**で、一般の方々からの支援と、モノづくり作家による支援の、双方による東北支援活動です。現在、約600の協賛店、90名以上の作家が参加してくださっています。

2011 3月末 岩手出身の光房みちが友人の陶芸家 ホソカワカオリ氏に本支援プロジェクトを相談、友人の約20名の作家の賛同を得てスタート 矢川士郎氏、矢川杏子(筆作家)氏も参加し、募金活動のノベルティグッズを考案



サバイバル用のホイッスルに「二度と使うことがないように」と願いをこめて、手づくりで革のカバーに器の焼印を一つ一つ入れ製作

4月 同郷の小向麻子氏も加わり、HP製作、法人口座開設 益子春の陶器市での協力作家への呼びかけ、募金開始



手づくり支援プロジェクト(協力作家、協賛店など)

・協力作家(名前の順)

相澤のなま	豊原圭	中村かりん	遠島典子
阿久津理士	梶山友徳	坂本水衣	沼原なる美
向原介	藤村隆典	松本美子	ソフバング
池上進	加藤博史	佐藤誠	野水香輝
伊名美子	加藤淳	清水香輝	野間なほみ
石橋裕	加藤雅也	佐藤誠	志保智貴
いちのわ津美	川崎晴	豊谷友良	蓮崎なおの
伊藤直子	川崎龍樹	蓮崎いし	真田川崇史
大塚直子	川又和子	岸川ゆかり	平塚麻津子
小崎水子	岸川和子	岸川ゆかり	平塚麻津子
おののなつ	水谷千穂	山口由紀子	山口由紀子
藤本アユ	藤原友子	山口由紀子	山口由紀子
藤原由美	藤原由美	山口由紀子	山口由紀子
おとがわさこ	藤原由美	山口由紀子	山口由紀子
大塚直子	藤原由美	山口由紀子	山口由紀子
藤原由美	藤原由美	山口由紀子	山口由紀子
藤原由美	藤原由美	山口由紀子	山口由紀子

・協賛店(募金箱/グッズ設置協力など)

Company	Food
Yellowium株式会社	pain de musha musha
ソフバング	and coffee
ソフバング宇都宮	パン茶房 小梅堂
ソフバング高松	ばんおおしか 梨安
ソフバング新潟	食工研NO-FA
ソフバング共同	とらごのたき野
ソフバング共同	Taverna Sakurai
イー・モバイル宇都宮	藤原由美
バインズ(北川)倶楽部	サン・クリストフロ
株式会社つむぎ	Bist-eria Mell-Melo
作家館 つまごギャラリー	TORATTORIA da RICOBA
つがもとお池野	Corfons
つがもとお池野	らー鋒 藤原家
作家館 つまごギャラリー	雪の社 新木
つがもとお池野	Beauty
Cafe & Gallery	PECCA-COCCA
GALLERY IN THE BLUE	salon kyoko
Cafe R'hana	minox理容所
Quintopus	UsagiCowo
Café KENZOSUN	hair Labo natura
藍古時計	Ripple Marks HAIR
CAFE CENTRIO	seal hair work
作問 呪(ルーファンチー)	
イチョブアノイチ	
Select Shop	
パストリ	ホイッスルなどの革のアクセ
GOURDM	オーダーメイド靴
うつわ屋	銀座つむぎ
相模原店 木渡れ日	ソフバング
仁平製菓店	井戸坂ドットコム
菓子 第二店舗	READY OH ORDER
Education	石井製菓所 (株)坂藤
バリエーション 産直院、戸塚校	株式会社クワイブ
Stay & Culture	
二期製菓部 7-ビド 那覇	
NAOテクノクラブ	

本ボランティア活動に、ぜひみなさまのお力を
お貸しください!

・ご寄付
ほんの気持ちで構いません、小さな力も集まれば大きな力になります!

・募金箱、募金促進グッズ設置の協力
お知り合いのお店やギャラリーなど、設置協力にぜひお手を付けてください。

- 2013 3月 「ソトコト3月号」に掲載
- 4月 益子春の陶器市開催、募金活動～器集め
- 6月 7日、下野新聞に掲載
- 7～9日、第五回陶器市開催(宮城県 東松島市)
- 11月 益子秋の陶器市開催、募金活動～器集め
- 12月 14～15日、第六回陶器市開催(宮城県 石巻市)
- 2014 3月 16日、第七回陶器市開催(宮城県 石巻市)
- 7月 26日、第八回陶器市開催(宮城県 南三陸町)

- 2012 3月 14日、下野新聞に掲載
- 4月 益子春の陶器市開催、募金活動～器集め
- 7月 14～15日、第三回陶器市開催(岩手県 陸前高田市)
- 15日、岩手日日新聞に掲載
- 17日、三陸経済新聞に掲載
- 11月 益子秋の陶器市開催、募金活動～器集め
- 12月 8日、第四回陶器市開催(宮城県 気仙沼市)
- 23日、下野新聞に掲載

南三陸町について

南三陸町は、石巻市の北東部に位置し、人口(1万4千)を擁する町であり、リアス式海岸特有の景観や、金華山国定公園の指定を受けています。町土の70%は森林ですが、金華山沖(三陸沖)では、黒潮(暖流)と親潮(寒流)がぶつかるため世界三大漁場の1つとなっており、漁場に近い本町は水産業の町となっています。

震災ではリアス式海岸の地形的な特性から津波の影響を大きく受けて甚大な被害となりました。地震による地盤沈下も大きかった地域(-75cm)です。被災住家(半壊以上)は全住家数の約62%、約59%、3,143戸が全壊(平成23年2月末)となりました。



1. 被災状況(町役所公表データ 2014/3時点)

- 死亡者数 619人
- 安否不明者数 217人
- 仮設住宅数 2195戸(58団地)

2. 被災棟数の内訳

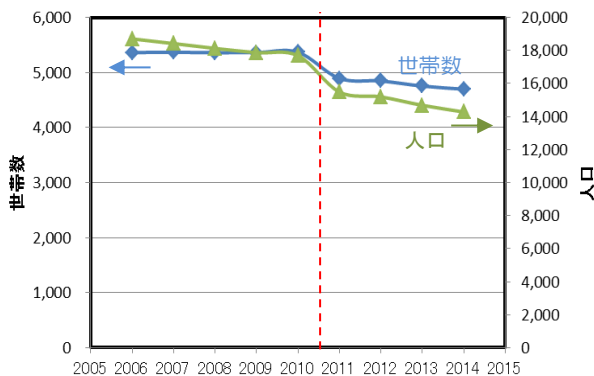
全壊	半壊/大規模半壊	被災前全戸
3143棟(58.6%)	178棟(3.3%)	5362棟

全棟数の約59%が全壊、半壊/大規模半壊まで含めると全世帯の約62%となります。

3. 世帯数、人口の変化

	世帯数	人口(人)
震災前(2011/2)	5362戸	17,666
現在(2014/9)	4697戸	14,276

全世帯数は変化は小さいですが、人口は震災前から徐々に減少、震災で大きく減少しています。(グラフは各年12月のデータ)



4. 仮設住宅

- 48の地域に58の仮設住宅団地、計2195戸
- 災害公営住宅の大幅な遅れもあり、28年までの延長措置が取られています(P13参照)。

↓間取り例(2DK:2~3人用)

↓仮設住宅(写真は南三陸町歌津地区)



家電(日本赤十字社からの寄付)
32型液晶TV、冷蔵庫、洗濯機、炊飯器、電子レンジ、エアコン

仮設住宅の位置(※宮城県webサイトより)

全58団地(すべて完成)

項目	数
仮設住宅	2,195 戸(うち1,849戸入居)
入居割合	84.8%
入居者数(人)	4,677 人

※上記に加え、民間賃貸(みなし仮設)数は25件、入居者数95人(H26.9.30時点)

仮設住宅は幹線道路沿いの高台などに点在しています。これまでの生活区域から離れ、場所によっては相当不便なところもあります。町のイベントはこのように離れてしまった住民の方々の久しぶりの再会の場にもなっています。



5. 南三陸町の被災の特徴 地震と津波の状況

14時46分の地震で町内で最大震度6弱が観測され、志津川エリアの最大津波高さは15.9mとされています。浸水面積は約10km²で南三陸町全体面積の約16%にあたり、人口の約80%がその浸水範囲内に住んでいました。火災発生件数は5件。

写真で見る被災状況(2014)



南三陸防災対策庁舎
職員が津波からの避難を呼びかけつづ、
屋上のアンテナにつかまった10人だけが
助かった庁舎(解体の最終判断は2015/3)



志津川駅(BRT：バス高速輸送システム)
JR気仙沼線は震災以降一部廃止とし、
2012/8よりBRT方式で仮復旧して
います。(さんさん商店街となり)



陶器市開催会場(魚市場)付近
まだ一部工事をしていましたが、ほぼ
きれいに整備されています。周辺の加工
工場も多く稼働していました。



地図データ ©20

震災前



震災後(2011.3)



現在(2013.5)



写真企画webより

志津川湾周辺：がれきなどの撤去作業は進み、きれいになったものの更地のままで、仮設住宅同様に多くの建物は高台への建設を検討

南三陸町での陶器市開催

イベントなどの少ない被災地で実際の陶器市のように、好きなものを選び、少しでも楽しんでもらいたいということで、これまで同様にチャリティー陶器市という形で開催しています。今回は南三陸復興市運営委員会主催、観光協会が協賛する「志津川湾夏祭り」のなかで、多くの地元の野菜や食べ物の屋台、県外からの支援団体の出し物とともに陶器市を開催しました。



夏祭りポスター

夏ということでピアマグや花器、また大皿や魚皿、小～中鉢、など、多くの種類をおりませて準備をしました。

今回も多くの作家さんより無償で器を提供をいただきました。また県外の作家さんからもご協力をいただき、数としてはこれまで同等の約3000点を用意することができました。

震災から約3年半とだいぶ時間が経っていますが、継続してご協力くださる作家さん、協賛店の方々、県外からもHPやご紹介で、関心を持って下さる方々など多くの関係者のお力添えのもと、プロジェクトは継続することができています。

手づくりの器は見て楽しめるだけでなく、実際に触れて使っていただくことで徐々に変化し、味が出てきます。復興へむけたこれからの長い道のりの中で、被災地の方々とともに毎日の食へのいろどりを与え続けられたらという想いを込めて、陶器市を開催しています。未永く使っていただけたら嬉しいです。

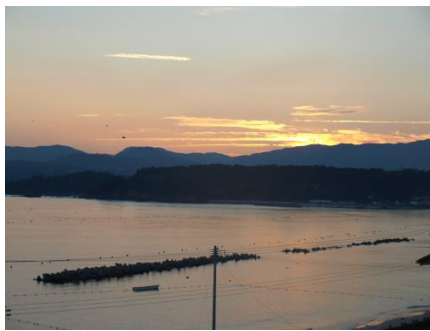
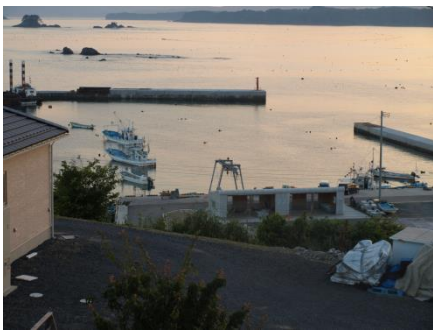
メンバーの活動風景 7月25日（金）出発



- AM9:00上三川に集合。
上三川にて、これまで準備した器(約3000個)を梱包したコンテナを車へ積み込む。行程のブリーフィングなどを行い、器を満載した6台で出発。(他は現地合流)



- PM3:00 上三川から約340km、現地へ到着、会場は仮設魚市場の道路を封鎖し、道路の両側に出店のテントを設営。現地到着後、事務局に挨拶し、明日からの開催に向けたレイアウト確認などを行った、終了後、宿へ移動。中央写真は港の様子、まだ防波堤の工事が行われていました。写真右は今回お世話になった民宿の清観荘。



・写真左は宿からの景色。宿は高台のため津波の被害はなかったが、途中の道では多くの傷跡が残っていました。写真中央は消波用のテトラポット、だいぶ沈下していた。宿では明日の陶器市に向け、準備を行う。夜、早朝のメンバーと合流し、イベント当日は計14人となる。

7月26日(土) 南三陸町(志津川湾夏まつり福興市)での陶器市開催

志津川湾夏まつり(昼のイベントと夜の花火)は震災前は毎年約2万人もの多くの人出で賑わう夏のイベントでした。今回は震災後初の開催ということで、3年ぶりに開催されました。地元の多くの若いスタッフがイベントを運営し、よさこい、太鼓、音楽イベント、花火と活気あふれるものとなりました。

開催の様子①



・朝8時、天気にも恵まれ、会場へ到着。出店者全員でのブリーフィング後、それぞれテントなどの設営準備にかかります。8回目ということで、テント張りもだいぶ慣れてきました。その後、大量のコンテナを降ろし、総動員で準備を行います。日差しもだいぶ強く、真夏日となりました。



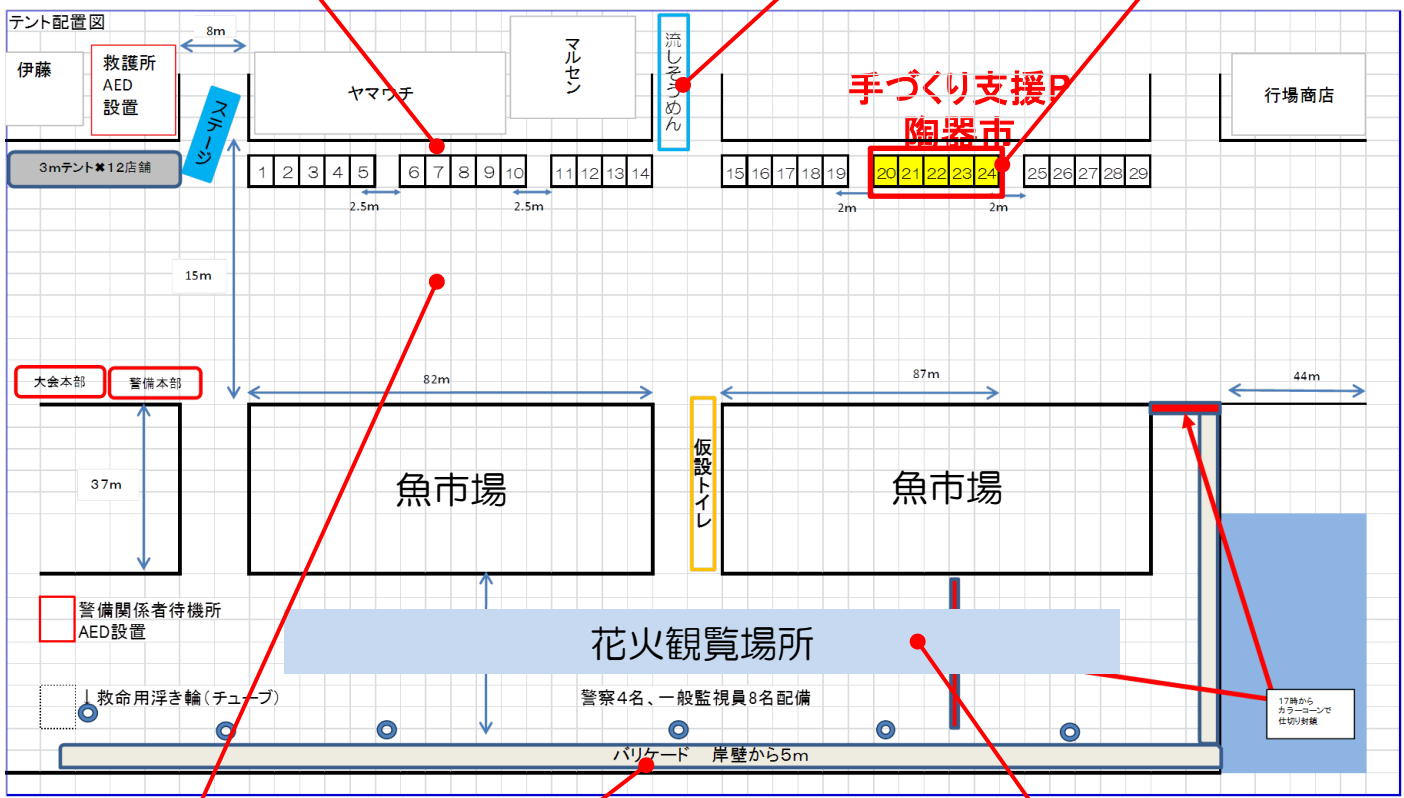
・開梱、器のディスプレイ、会計、梱包処での袋準備(取扱い説明書や寄書のチラシ入れ)などを行います。今回も約90名もの多くの作家の作品たちが並びます。写真右はわれわれのテント全景(2間3間のテントを2張設営しました)。



・これまでと同様にプロジェクトの趣旨などをディスプレイし、いよいよPM1:00からイベントスタートです。写真右は開場前のお客さん。数はいつもより少なめでしたが、すこしずつ地元の方が入ってきました。

イベントレイアウト

下図のように魚市場のメイン通りの車道を封鎖、歩行者用とし、その車道脇を出し物のテントが一列に並びました。この車道では地元の方々によるよさこい踊りや音楽隊のパレードなどが行われました。他県からの出店(そうめん)や物販、地元の海産を使った食べ物のテントも並びました。



当日は13:00からイベント開始、花火終了は20:00と今までで一番長いイベントです。この志津川夏祭りは震災以降、初の開催となり、3年ぶりの花火大会に多くの地元の人々の期待が寄せられます。

開催の様子②



- 以前に比べ、じっくり器を選んでゆかれる方が増えています。仮設住宅ではスペース的に器をたくさん置くことは難しいですが、今やその数もだいぶ揃い、本当に欲しいと思うものを選べるようになってきたんだなぁと感じています。実際、大きさや形、家族形態に合わせ、いろんな種類の器のニーズも多くなっていました。



- ツアーバスで外国の方もたくさん来てくれました。日本の器に興味津々で、この活動の説明をすると喜んで購入してくださいました。写真中央は元気いっぱいな地元の若者たち。自分用と母親用にとご飯を食べる茶碗を選んでゆきました。夕方になって花火を見に浴衣姿の若者もだいぶ増えてきました。



- 夕方、テントに灯りがともりました。特に食べ物が多い屋台の中に手づくりの器、この異色のイベントに多くの方が興味を示してくれました。宮城にも大きな窯元などが無く、このようなイベントは珍しいようで本当に喜んでいただきました。写真右は器好きな地元の若者がビール片手に楽しそうに器を選んでくれている様子です。



- 天気の崩れもなく、3年越しの花火が南三陸の夜を飾りました。ようやく実現した夏祭りに、地元の福興市実行委員の方々も感無量の様子でした。花火終了後、帰りのお客さんが再び陶器市テントに集まり盛況です。夜8時半、ようやく人足も少なくなり本格的に片づけ開始です。



・陶器市の片づけは梱包作業があるのでとても大変です。灯りが回収され車のヘッドライトの明かりで作業を進めます。夜10時過ぎによやく作業完了、みんなで集合写真を撮って宿へ向かいました。ここまで長丁場のイベントは初めての経験でした。

7月27日(日) 南三陸町さんさん商店街にて(福興市運営委員会事務所へ器のお届け)

おかげさまで我々は無事に陶器市イベントを終了することが出来ました。イベント運営に尽力し、当日陶器市に来ることが出来なかった福興市運営委員会のメンバー(事務所)へご挨拶と寄付の器をお届けに上がりました。事務所は会場から少し離れた、さんさん商店街(仮設の商店街)の中にあり、南三陸町の様々なイベントの企画運営を担っています。



・さんさん商店街は南三陸で一番大きな仮設の商店街で、大きな目玉はやはり地元の海産物やうに丼などで、多くの観光客でにぎわっていました。南三陸町は石巻のイオンの様な大きなスーパーなどはありませんが、代わりにこういった小さな商店街が活気で溢れていました。(逆に石巻の仮設商店街はだいぶさびれていました)



・お昼時、飲食スペースもかなりの賑わいでした。我々は事務局へご挨拶、昨日の陶器市の売上と寄付の器を渡し、南三陸を出発しました。写真右はBRT(バス高速輸送システム)の志津川駅。廃止した電車の代わりに地元の方々の移動手段となっています。

今回は天候にも恵まれ、多くの地元の方々が足を運んでくださいました。いらした方々の話を聞いてみると、仮設住宅から災害公営住宅へ引っ越すという話がほとんどなく、まだ狭いので器をたくさん欲しくても置けない、という声が多かったのが残念でした。前回の石巻では引っ越しの明るい話があったので、やはり自治体の力の差が大きいのだなあというのが実感です(南三陸町は石巻市に比べ人口1/10以下)。

また、震災前の夏まつりでは近隣の町や仙台などから多くの観光客が来ると聞いていましたが、実際に話を聞いてみると、今回いらした方々の多くは地元の方で、仮設住宅で暮らしている方々がたくさんいらっしゃいました。震災後初の夏まつりでしたが、当初の心配の通り、やはり観光客は大幅に減ってしまったようです。しかし、町が戻れば観光客も必ず戻ってくると思います。まずは復興に向けて第一歩を踏み出したのではないかと思います。

私たちもこれから徐々に増えてゆく災害公営住宅の完成に向け、器のサイズや種類など、変わってきた地元の方々のニーズに合わせて対応してゆこうと思っています。

数字で見る南三陸町の状況 (※2014/9時点 宮城県、南三陸町データより)

災害公営住宅(仮設住宅からの移転)についても、南三陸町も着手はしているものの、まだ**完了は84戸**(計画数の約11%)しかありません。右下のグラフが目標値で、**3年後の平成28年度に全戸完成させる目標**になっています。現在の仮設住宅は現状1年間の延長措置が取られているものの、計画ではまだ2年かかる予定なので、さらに延長措置がなされるものと思われます。私たちは引き続きこの活動を仮設住宅が完全になくなるだろうと考えている2018年(H30年度)を一つの目標として支援を継続してゆきたいと考えています。

災害公営住宅の着手状況(宮城県データ)

市町名	計画戸数	事業着手戸数		うち、工事着手戸数		うち、工事完了戸数	
		進捗率		進捗率		進捗率	
01 仙台市	3,180戸	3,116戸	98.0%	2,584戸	81.3%	701戸	22.0%
02 石巻市	4,000戸	2,871戸	71.8%	2,037戸	50.9%	152戸	3.8%
03 塩竈市	420戸	346戸	82.4%	94戸	22.4%	31戸	7.4%
04 気仙沼市	2,168戸	2,088戸	96.3%	235戸	10.8%	0戸	
05 名取市	716戸	92戸	12.8%	92戸	12.8%	0戸	
06 多賀城市	532戸	482戸	90.6%	482戸	90.6%	0戸	
07 岩沼市	210戸	210戸	100.0%	210戸	100.0%	0戸	
08 登米市	84戸	60戸	71.4%	60戸	71.4%	38戸	45.2%
09 栗原市	15戸	15戸	100.0%	15戸	100.0%	15戸	100.0%
10 東松島市	1,010戸	657戸	65.0%	415戸	41.1%	254戸	25.1%
11 大崎市	170戸	170戸	100.0%	170戸	100.0%	40戸	23.5%
12 亶理町	477戸	477戸	100.0%	477戸	100.0%	112戸	23.5%
13 山元町	484戸	401戸	82.9%	159戸	32.9%	91戸	18.8%
14 松島町	52戸	52戸	100.0%	52戸	100.0%	0戸	
15 セツ浜町	212戸	212戸	100.0%	212戸	100.0%	0戸	
16 利府町	25戸	25戸	100.0%	25戸	100.0%	0戸	
17 大郷町	3戸	3戸	100.0%	3戸	100.0%	3戸	100.0%
18 涌谷町	48戸	48戸	100.0%	48戸	100.0%	8戸	16.7%
19 美里町	40戸	40戸	100.0%	40戸	100.0%	40戸	100.0%
20 女川町	945戸	489戸	51.7%	225戸	23.8%	225戸	23.8%
21 南三陸町	770戸	719戸	93.4%	224戸	29.1%	84戸	10.9%
計	15,561戸	12,573戸	80.8%	7,859戸	50.5%	1,794戸	11.5%

【南三陸町の災害公営住宅の例】



※入谷桜沢地区 (UR戸建)

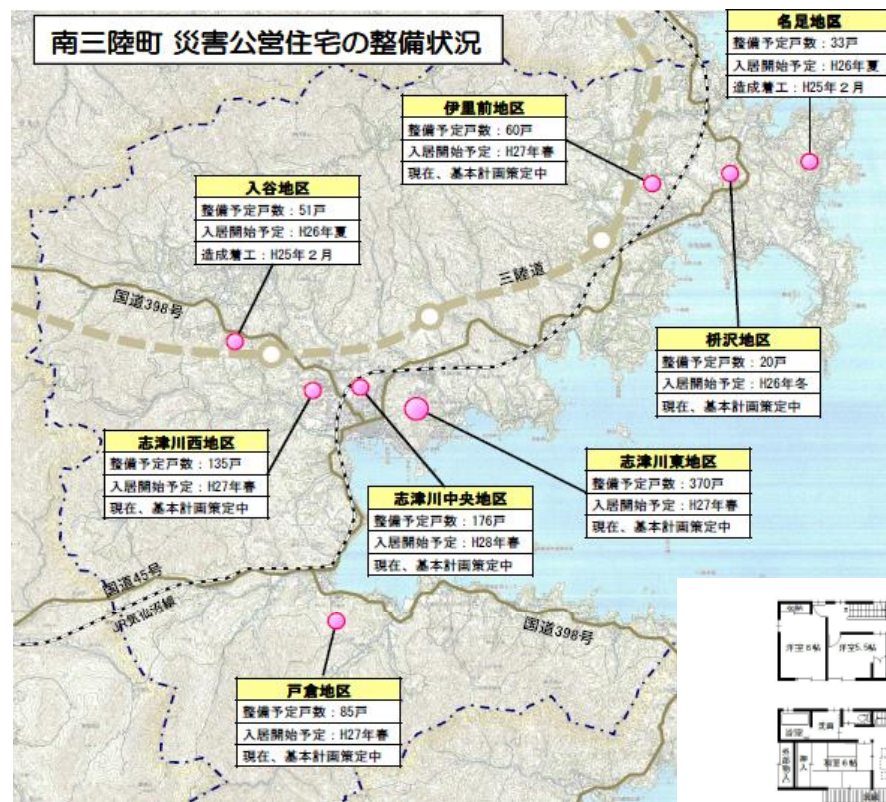


※天井も高く内装も素晴らしいものになっています



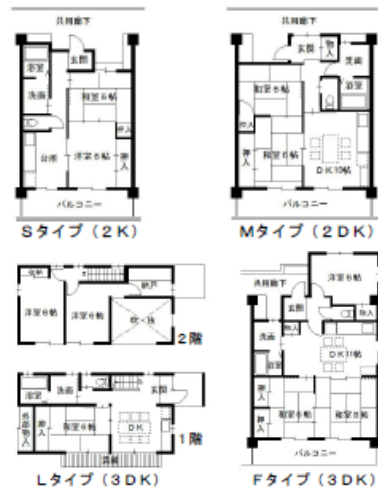
※キッチンも広々としていて収納もしっかりついています

災害公営住宅の整備状況(南三陸町データ)



まだまだ完成した数は少ないですが、1戸建て(平屋、2階建)から、アパート、大きなマンションタイプと、さまざまな形態があります。狭小で環境の悪い仮設住宅から、このようなしっかりとした復興住宅への移転に合わせ、器のニーズもさらに大きくなると思われます。

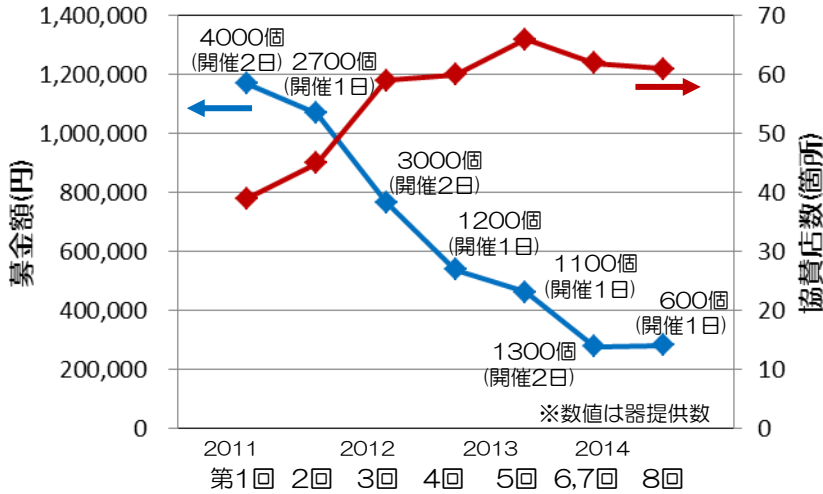
【住戸プラン例】



震災から3年半、様々な変化について

この3年間で東北の被災地に約14000個(無償、チャリティー販売)の器を提供してきました。仮設住宅や復興住宅、店舗など様々なところで使っていただき喜んでもらっています。陶器市や協賛店での募金額の減少もありますが、作家さんの地震による被災からの復旧もあり、無償提供いただく器の割合も増えて、毎回約2500~3000個の器を準備し現地へ持ってゆくことができています。

現地では以前に比べ、じっくり器を選んでゆかれる方が増えています。仮設住宅では収納上の問題もあり、器を置ける数は限られてしまっていますが、その器の数もだいぶ揃い、本当に欲しいもの、良いと思うものを選ぶようになったんだなぁと実感しています。一方、幸いにも早期に復興住宅に移ることができた方々は、新たに家族分の揃いが欲しいなど、ある程度の数が必要で、また求める器の種類も長皿や小、中鉢など、これまで以上に多様なニーズが増えてきています。今後はこれらの現地の声をもとに、これから増えてゆく復興住宅でのニーズに添えてゆけるように準備をしてゆきたいと思っています。



手づくり支援プロジェクト募金額と協賛店数推移

募金に関してはこれまで同様に減少方向ですが、あらたな募金促進グッズの製作やさまざまなイベント活動を行い、維持してゆこうと考えています。あらたなグッズとしては革のカードケースやペンケースなど(写真)を製作しています。また、これまでの支援活動を報告するPRイベントでの物産販売、岩手宮城などの各県人会での活動なども新たに行っています。協賛店では新たな価値と募金しやすい値段設定などにより、好評を得ています。1店舗当たりの募金額が減少しても、より多くの方々が協力してくださることで、大きな力につながります。引き続きお力添えをいただけましたら幸甚です。

メンバーによる手づくりの募金促進グッズ



本革製のマウスパッド



手彫りハンコの絵葉書



本革製のコースターと小物など



サンキャッチャー



いろいろな革小物

第8回手づくり支援プロジェクトまとめ 収支

収支報告

・準備(無償/購入)器数 : 約3000点 (うち提供数(無償+販売): 600個)

・協力作家数 : 約90名(HPへの非記載分含む)

・協賛店数 : 61箇所(2014/7時点)

※協賛店: 当支援の趣旨に賛同いただき、募金箱やメンバーの募金促進グッズの設置協力をいただいているお店、募金促進グッズ用の革、器などをご提供いただいているお店など

収入(募金分+繰越分)

・合計(7/25時点) : 282,172円 (442,006円)

募金額内訳

個人 : 123,500円(うち振込み90,000円、それ以外33,500円)

協賛店 : 89,998円(作家さんによるイベントでの募金含む)

陶器市募金(益子 秋) : 68,674円

繰越金(第6、7回) : 159,834円

支出(器購入費、グッズ材などその他経費)

・合計 : 326,644円

内訳

作家への支払い : 175,370円

グッズ製作費/募金推進用材料費

(ボード/募金箱、チラシその他雑費、郵送費、器着払い送料その他)

: 151,274円

115,362円(第9回へ繰越)

チャリティー陶器市での収入(商店街での器販売分)

・合計 168,300円

売上は全額(168,300円)を、南三陸復興市運営委員会へ寄付し、市の継続、復興資金などに使っていただくこととしました。

・その他

(宿泊費@14名 計194,616円 : 全てメンバー自費

また、現地移動費の一部を本田技研工業株式会社より援助いただきました)

今回は南三陸町の方々のたくさん笑顔を見ることができました。

プロジェクトの支援メンバー、作家さん、協賛店の方々、支援金をいただいた多くの方々のおかげで第8回の東北支援活動が達成できたことを心より感謝しています。震災から3年半、時間の経過とともに支援の熱が冷めてゆく中、協賛店や作家、メンバーの広がりや各地からの支援の輪が繋がり、これまで同様に継続、開催することができました。(今回も多くの作家さんから無償提供のご支援をいただきました。)

この活動を続けてきて様々な現地の現状、人々の感情の変化などを見てきました。仮設住宅の居住期間の延長措置とともに、復興住宅への引越しも少しずつですが始まっています。また流された商店などの地元物産販売の全国ネット展開や新たな付加価値を付けた商品開発など、以前では想像もしなかったであろう大きな変化も生まれています。震災があったからこそその新しい挑戦がたくさん生まれていて、明るい兆しも実感として感じています。東北のひとびとの持ち味である、決してあきらめない心と日本の多くの秀逸な技術力が合わさって危機をチャンスへと活かす動きが広がっていると思います。

我々の活動も今後の新たなニーズを感じつつ、どのような支援のかたちがいいのか、継続の仕方を含め私たちが試行錯誤をしてゆこうと思っています。小さなプロジェクトですが、メンバー丸力を合わせて継続してゆきますので、今後ともどうぞ変わらぬお力添えのほど、宜しくお願いいたします。

第8回手づくり支援プロジェクト参加メンバー



・第8回お届けメンバー

吉田弘道
鈴木祥子
小嶋秀忠

田中之人
木村世傑
谷本智

斎藤有紀・昴成
松谷正博
松森裕史

井上直樹・涼子
藤平篤
菅原美穂子

・協力作家(名前の順)

相澤かなえ
阿久津雅土
岩見晋介
池上暁生
伊佐名美子
石嶋哲彦
いちかわ清美
伊藤ヨリ
大塚温子
大津広子
奥住久雄
小野悦子
おぬきなつ
岡本芳久
岡本有希子
岡田直恵
岡部耕太郎
おとがわさとこ
尾関翼郎

笠原良子
梶山友里
勝村顕飛
加藤博史
加藤弓
加藤喜道
川崎萌
川島郁朗
上條富子
川又和子
木村世傑
国友武志
糸川通治
倉前幸徳
栗原節夫
桑原純
後藤義国
近藤康弘

斎藤圭
坂本光永
坂本雅子
佐藤敬
茂野俊也
清水秀輝
荘司武臣
菅谷太良
薄田いと
ジェビー・ガール
関口洋平
関口まきこ
関川佳古

瀧昭典
豊田雅代
陶遊舎谷口
戸塚佳奈

中村かりん
成田真澄
能登美登利
野水美里
増漣
長谷川奈美
長豊陶苑
蓮見かおり
原泰弘
平泉志津子
平松龍馬
福地綾子
福田惣一
福山龍之介
藤田安雄
藤井美香
杵か加利
堀水小夜
堀水達雄

増永典子
豆腐なる美
Masa
三戸綾乃
溝口丈
宮島将實
松下曜子
松下忠生
もときみちこ

吉澤奈保子
アソケイ
若菜綾子
渡辺キ工
渡辺六郎
渡辺克典
その他多数

・支援してくださった多くの方々

協賛店の方々、光房みちの友人、職場のみなさん、メンバーゆかりの多くの方々、報道関係の皆さま、本田技研工業株式会社

・協賛店(募金箱/グッズ設置協力)

Company

シヨイコム株式会社
ソフトバンク インターパーク宇都宮
ソフトバンク宇都宮東
ソフトバンク鹿沼
ソフトバンク古河
ソフトバンク真岡
イー・モバイル宇都宮

パインズ日光ゴルフ倶楽部

株式会社つかもと
作家館 つかもとギャラリー
陶芸広場つかもと
つかもと記念館

株式会社 日本ヴォーグ社
国際医療福祉大学病院
EX-サービス株式会社

Cafe & Gallery

GALLERY IN THE BLUE
Cafe R hana
QupuQupu
Café KENZOSUN
益古時計
GALLERY TAS TAS
CAFE CENTRO
作坊 吃(ゾーフアンチャー
イチトニブンノイチ
ミハシカフェ

Select Shop

ハナムグリ
GOURD+m
うつわ坂
アートショップ向井
相玄窯の店 木洩れ日
仁平古家具店
益子 第二倉庫

Beauty

PESCA-COCCA
Handmade soap SQUAMISH
salon kyoko
minoriori美容所
UppityCovo
hair Labo natura
Ripple Marks HAIR
seal hair work

Education

バナナキッズ (英会話教室)
雀宮校、戸祭校

Stay & Culture

二期倶楽部 アートビオトープ那須
NAO テニスクラブ

Food

pain de musha musha and coffee
パン茶房 小梅堂
ぱんとおかし ノアン
食工房NO-RA
とらっとりあ天野
Taverna Sakurai
銀座園
サン・クリストフォロ
Bis-t-eria Meli-Melo
TORATTORIA da RIOBA
鮎暁
Conifers
らー麺 藤原家

ホイッスル用の革を提供していただいています。
Special thanks!

オーダーメイド靴
銀座てつじ屋

レザークラフト
井戸辰ドットコム
READY OR ORDER
石井裁断所
(株)廣瀬

ハンドバッグとトータルファッショングッズ
株式会社クイーポ

第9回手づくり支援プロジェクトについて

第9回は宮城県の塩釜市/七ヶ浜町あたりを検討しています。秋の益子陶器市後の12月の開催を目指しています。塩釜市は宮城県のほぼ中央、仙台市と松島の間位置し、人口(約5万4千)、水産業が盛んで、松島湾と松島丘陵に囲まれており、平地のほとんどは埋立地(市街地は、埋立地が6割、丘陵地が4割)であるという特徴があります。

震災では市域面積の約22%、浦戸地区では全島において居住区域に達するなどの被害を受けました。周辺自治体に比べ被害は小さめですが、被災住家のうち全壊が1017件、大規模半壊2240件、半壊2308件、一部損壊は7768件となりました。

歌手の大友康平さんや声優の山寺宏一さんの出身地でもあります。

1. 被災状況(市役所公表データ 2014/4時点)

- **死亡者数 47人**
- **災害関連死 18人**
- **仮設住宅数 206戸(8箇所)**

※当時の被災写真は市HPなどより掲載



本塩釜駅周辺地区



藤倉地区



桂島地区



新浜町地区



マリングート付近



塩釜港埠頭

開催情報は詳細が決まり次第、手づくり支援プロジェクトのHPにアップいたします。引き続きみなさまのご支援、お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

◎お問合せ「手づくり支援プロジェクト」で検索
<http://handmade-project.iimdo.com/>

◎支援金の口座 / 銀行振込
足利銀行：駅東口出張所 (普) 3230334
口座名義 手づくり支援プロジェクト



※携帯からはこちら↑

作家さんと第8回お届けメンバーの写真



手づくり支援プロジェクト
<http://handmade-project.jimdo.com/>

手づくり支援プロジェクト

手づくりの器を直接被災地へ届けよう

